<u>CLASSE :</u>	<h1 style="color: blue;">文法と文学</h1> <h2 style="color: blue;">GLS-11L</h2>
<u>Jour :</u>	Lundi
<u>Horaires :</u>	13:30-15:20
<u>Niveau :</u>	B2
<u>M./Mme :</u>	M. Takahiro KUNIEDA
<u>Objectifs :</u>	文法構造、文法項目を精緻に分析しながら、フランス語で小説を読む。
<u>Descriptif :</u>	<p>遠藤周作が翻訳したことでも知られる François Mauriac (1875-1970) の小説 <i>Thérèse Desqueyroux</i> 『テレーズ・デスケルー』 (192 年) を精読します。風土と心理—この 2 つを主なテーマとしてその端正な文体を原文で味わいます。</p> <p>文学テキストを読む楽しみは、確かに作者の想像した世界に自らも入り込むことにあります。しかし、そこで用いられている言語そのものの正確な理解なしには作品世界の理解もありえません。この授業では、文法構造、文法項目をおろそかにせず、ひとつひとつ精緻に分析することで、作品世界をよりいっそう深く理解していくことを目的とします。</p> <p>授業の構成：毎回 2 ページほど読みます。授業は講師が解説をし、受講者からの質問を受ける形式です。毎回 5~6 人の方に、それぞれ 10 行ほどの訳の宿題を出します。担当になった人は、次回の授業の前日までに自分の訳を電子媒体で講師に送ります。次回の授業の冒頭で添削済みの訳文を配布し、前回の復習と日本語訳の確認をしてから、新しい箇所に入ります。</p>
<u>Matériel :</u>	テキストのコピーを配布
<u>Remarques :</u>	冬学期から読み始めたばかりですので、春学期からの参加でもまったく問題ありません。